

15—山崎朝雲《彫塑家トモデル置物》
明治39年(1906) 鑄造



明治後期には、山崎朝雲のように、西欧の彫刻技法をも深く学んで、実在感の豊かなブロンズ彫塑の制作を試みる木彫家が見られるようになった。しかし、それでも明治期の山崎の彫塑作品の多くには、置物制作の手法が色濃く影を落とし続けている。ここで紹介するのは、そうした、日本的な「置物」と西欧風の「彫刻」が分離しようとはしはじめた過渡期の表現傾向を典型的に示す、興味深い例である。



16—横田秀一《吹角》
明治39年(1906) 鑄造

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代日本の置物と彫刻と人形と
— 豊饒なる立体像の世界
三の丸尚蔵館展覧会図録No.34

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 横溝廣子
発行 宮内庁
平成16年3月27日

Modern Japanese Ornamental Artifacts, Sculpture, and Dolls
— the fruitful world of three dimensional figures
Sannomaru Shōzōkan Exhibition Catalogue No.34

Edited by the Museum of the Imperial Collections, Tokyo
(Sannomaru Shōzōkan)

Printed by Tokyo Bijutsu Co., Ltd.
Translated by Hiroko Yokomizo
Published by Imperial Household Agency, Japan
Issued on March 27, 2004

Copyright ©2004, The Museum of the Imperial Collections, Tokyo